

(2)-カルチャーセンター

「日本人は働きすぎる」とよく言われますが、最近では日本人の生活も変わってきました。確かに、今までは忙しすぎて、毎日の生活や仕事のことしか考えられませんでした。しかし、経済が発展して生活に余裕ができたので、自分自身を高めるために時間を使いたいと思う人が増えました。また、最近では「生涯学習」という考え方が広まり、学校を卒業した後も生きている間はずっと何かを学び続けたい、と思う人が多くなりました。その結果、カルチャーセンター、公民館、図書館、放送大学など、大人も学べるところが増えてきました。中でも、カルチャーセンターは、だれでも、いつからでも学ぶことができるので、とても人気があります。

カルチャーセンターの講座の種類は、スポーツ、伝統芸能、料理、語学、音楽、美術、コンピュータなどたくさんあって、利用者は、自由に好きな講座が選べます。例えば、手芸教室やエアロビクスの教室などは主婦に人気がありますし、大学で勉強するような日本語学や経済学の講座が開かれているところもあります。開講時間も、朝7時ごろから夜9時ごろまでと、いろいろな人が利用しやすくなっています。ですから、昼間は働いている人たちも大勢通っています。OLが出勤前にプールで泳ぐこともできるし、サラリーマンが、仕事が

終わってから語学の勉強をすることもできます。また、平日はほとんど時間がない人でも、日曜日の講座に参加して、写生に出かけたり、テニス・スクールで汗を流したりすることもできるのです。

その上、カルチャーセンターは、「学ぶ場」であると同時に、「出会いの場」という役割も果たしています。つまり、同じ興味を持つ人が、老若男女を問わず集まるので、幅広い人間関係を作ることができるのです。ここで、新しい友人を得る人もたくさんいます。

カルチャーセンターは、学校と違って必ずしも行く必要はありません。しかし、心豊かな人生を送るための一つ的手段として、このような場を上手に利用する人が、これからもますます増えていくでしょう。

文章出處： みんなの教材サイト－中級読解

網址：

<https://minnanokyoza.jp/kyozai/comprehension/middle/home/ja/render.do>